（様式２）報告書

令和５年度　特色ある教育実践研究校（人権教育）　報告書
阿戸小中一貫教育校

１　学校の課題

※データ等を基にした学校の課題

①　本校は，幼少期から同じ仲間と少人数で過ごしているため，人間関係が固執し新しい人間関係を作りにくい傾向がある。

②　農村地区ゆえ刺激は少なく，生徒は全体的に穏やかである反面，競争心がなく，自ら進んで学習に向かう姿勢は身に付いていない。

③令和４年度の全国学力・学習状況調査や広島県児童生徒学習意識等調査の生徒質問紙では，「自分にはよいところがある」に否定的な回答が，現中学３年で 31.3%，現中学２年で 57.2%であり，教員の生徒への声掛けや指導の在り方について改善をしていかなければならないことが散見される。生徒が失敗した時こそ，教員が自尊感情を高める言葉がけができるよう，人権感覚を磨く研修が必要である。

２　研究主題

自他を大切にし，集団や社会に貢献できる児童生徒の育成
～子どもが訊き合い，考える授業づくり～（二年次）

３　取組内容

※１の課題解決に向けて、重点的に取り組む項目とその具体

重点的に取り組む項目

⑴ 小中一貫教育校の特性を活かし，小中学校９年間で系統的に指導することにより，児童生徒に自己肯定感や互いを尊重し合う心を育てる。

- 道徳科の研究授業を内容項目「A　主として自分自身に関すること」（向上心，個性の尊重，希望，勇気，克己と強い意志），「C　主として集団や社会とのかかわりに関すること」（より良い学校生活，集団生活の充実）に絞り，重点的に取り組む。
- ９年間を前期・中期・後期の３つのブロックに分け，ブロック別研究を進める。
- 「訊き合い」を大切にするため，児童生徒の関わり合いを授業の中に取り入れた学習活動を展開する。具体的には，授業スタンダード（交流する場面の設定，深める・つなぐ発問例を記載する等）を作成し，全員で取り組む。
- 年３回全体研究授業を行う。研究授業の際には，講師を招聘し研究協議会をもち，学んだことを日々の授業実践に活かす。
- 児童生徒会活動を充実させることで，人権感覚を養い，自己存在感を高める。

⑵ 教員が児童生徒理解を深め，児童生徒とよりよい人間関係を築くことができるよう研修を行う。

- コーチング研修を実施する。
- 職員間の支持的風土の在り方，醸成の仕方について研修を実施する。

４　検証結果

※成果指標の検証方法および結果

成果指標の検証方法

指標	達成目標	検証時期・方法
児童生徒への人権教育アンケート調査に示す指標	アンケート調査の数値目標（８０％以上）	５月・７月・１０月・１月 児童生徒アンケート調査

指標	達成目標	検証時期・方法
教職員への人権教育アンケート調査に示す指標	アンケート調査の数値目標（８０％以上）	５月・７月・１０月・１月 教職員アンケート調査

アンケート結果

項目（児童生徒）	５月	７月	１０月	１月
わたしは，仲間と協力することができます	９６％	９５％	９５％	９６％
わたしは，仲間のよいところを見付けて伝えることができます	**８３％**	**８２％**	**８７％**	**８８％**
わたしは，周りから自分の中にあるよいところを認めてもらえています。	**８５％**	**８６％**	**９２％**	**９２％**
わたしは，仲間と活動するとき，相手の立場や気持ちを考えて行動しています。	８８％	８６％	９２％	８９％
わたしは，安心して自分の考えを仲間に伝えることができます	**８２％**	**８９％**	**８９％**	**８７％**
わたしは，分からないところがあったら解決に向けて仲間と一緒に取り組むことができます	８０％	８８％	９４％	８８％
わたしは，自分との違いを理解した上で，相手のことを大切にしようとしています	**９４％**	**９３％**	**９７％**	**９２％**
わたしは，自分の気持ちを大切にしようと思います	**９４％**	**９３％**	**９４％**	**９３％**
わたしは，仲間が困っていたら助けようと思います	９８％	８８％	９７％	９６％
わたしは，自分がしたことで，周りの人の役に立ったことがあります	**８３％**	**８２％**	**８７％**	**８４％**
わたしは，人権を尊重したいと思います	**９４％**	**９３％**	**９８％**	**９８％**

項目（教職員）	５月	７月	１０月	１月
私は，授業等で児童生徒が相互に協力する場面を設定した	８３％	１００％	９６％	８８％
私は，児童生徒が相互に良さを認め合い，伝え合う場面を授業等で設定した	**８８％**	**７９％**	**８８％**	**８８％**
私は，児童生徒が自分の良さを自覚できるように名前を呼び，肯定的な声掛けをした。	**１００％**	**１００％**	**１００％**	**９４％**

私は，授業等で児童生徒が互いの立場や気持ちを考えて行動できるように指導した	９６％	９３％	９６％	９４％
私は，児童生徒が安心して自分の考えを言えるような集団作りを心掛けた	**８８％**	**９３％**	**９６％**	**９４％**
私は，児童生徒が分からないことを解決に向けて話し合う場面を設定した	**８０％**	**７１％**	**９２％**	**８２％**
私は，児童生徒同士が違いを理解した上で，相手のことを大切にできるように指導をした	**９２％**	**１００％**	**１００％**	**１００％**
私は，児童生徒について，受け身ではなく，一人ひとりの性格や抱える問題等を積極的に理解・把握するための取組を日頃から行った。	８９％	９３％	９３％	８８％
私は，児童生徒が集団生活のなかで互いのよさを生かすことのできる場や機会を適切に設けた	**７７％**	**９３％**	**８４％**	**８２％**
私は，日頃から児童生徒，保護者，来客者に自分から挨拶をして，良好な人間関係づくりに努めた	１００％	１００％	１００％	１００％
私は，人権感覚を育成する指導を推進した	**８１％**	**９３％**	**１００％**	**８９％**

５　研究成果

※成果・課題等

成果

○　道徳科授業スタンダードの作成

・　授業の流れを示すことで，教員の道徳科授業への苦手意識の軽減を図ることができた。

・　考えを交流する場面を設定することで，他者の考えを認めたり，自分の考えや気持ちを大切にし，より良い考えを出そうとしたりして，自他共に大切にする児童生徒が増えた。

・　考えを深めるための発問，考えをつなぐための発問をするために，発話例を整理し，教員がいつでも見返して使えるようにしたことで，教員が道徳科のねらいや意義について見識を深めた。そのことにより，児童生徒が自分の考えを大切にし，仲間の考えを受け入れたり，仲間の意見から学ぼうとしたりする態度が身に付いた。

○　道徳授業に使用する教具の活用

・　心情円盤・ホワイトボード・赤青カード等の意思表示のツールを積極的に活用することで，発言しにくい児童生徒が意思表示できるようになった。

○　教材理解のための板書の工夫

①　場面絵の効果的な活用

②　教材にでてくるものを可視化

③　意見をすべて書くのではなく，キーワードで整理

④　チョークの色，記号の効果的な活用

⑤　教材内容に応じた多様な板書方法（右から・左から・下から・中心から・対比・平行）

⑥　授業前後の考えの変容が分かる工夫

⑦　振り返り時に役立つ工夫

教師が①～⑦の様々な工夫を行うことで，児童生徒が教材の内容について理解を深め，活発な意見交流につながった。

○　児童生徒会活動の充実

・　正面玄関に「にっこりポスト」を設置し，友達の良いところを見つけたら投稿し，それを給食放送で紹介する取組を行ったことで，児童生徒の自己肯定感が高まり，他者理解につながった。

・　全校一斉掃除，集会，あいさつ週間において異学年交流や縦割り交流をしたことで，低学年は高学年から人との接し方や方法を学び，高学年は下級生から頼られることで自己存在感を高める機会となった。

・　行事等で仲間の頑張りを認め，思いを伝えあったり，協力したりする場面を設定したことで児童生徒の自己肯定感が高まり，他者理解につながった。

・　行事の提案書に人権的なポイントとなる場面を明記して提案するようにしたことで，児童生徒の人権意識が高まった。

○　教職員への研修

・　年３回の全体研究授業に加え，公開研究授業，ブロックごとの研究授業を行った。互いの授業を見合うことで，「主題」の大切さや発問，板書の重要性を実感し，道徳科の授業に対する理解が深まった。

・　コーチング研修を行い，児童生徒への声掛けの仕方や，関わり方を学んだことで，教員が児童生徒へ肯定的な声かけや励ましを意識的に行うようになった。

・　「支持的風土」の作り方について教員相互で考え，教職員の支持的風土を高めることで，児童生徒へのよいロールモデルとなった。

・　他校に積極的に視察に行き，自校の取組を見直し，改善するきっかけとなった。

課題

○　アンケート結果より，人権を尊重したいと思うと回答した児童生徒は多くなっている。しかし，児童生徒間のトラブルが無くなっているわけではないため，自身のことを大切にすることと同様に，他者のことも大切にしたいという思いがさらに育まれるよう今後も取り組んでいく。そのために，実生活に生かせる道徳の授業を展開できるようにしたり，行事の提案書類に道徳の関連項目を掲載したりして，道徳科の授業を生かした人権教育を推進する。